

26 年ぶり 32 回目の歓喜に神宮が沸く 東都大学野球 1 部リーグ優勝



↑ 同日午後 3 時から神田キャンパスで優勝報告会が行われた。

今春 1 部に復帰した専大が優勝を果たした。1989 年春以来 52 季ぶり、リーグ最多優勝記録を 32 回に更新。1 部に復帰した直後の優勝は、69 年春の日大以来 46 年ぶり 2 校目、開幕からの 6 連勝も 56 年ぶりという記録づくし。優勝を決する一戦に、多くの専修人が心熱くした。

東都大学春季リーグ最終週の 5 月 20 日（水）、勝てば優勝が決まる拓殖大学との一戦。1 部全学部は休講となり、神宮球場に多くの専修大学関係者が駆け付けた。

商学部 1 年の尾崎南斗さんは、野球サークルの仲間と応援。「開幕からの好調ぶりは仲間の間でも話題になっていました。優勝のかかった一戦、こうしてみんなで一緒に応援できて嬉しい」と初の東都リーグ観戦に心弾ませた。

在学中 2 度の優勝を経験している OB の山田さん（S58 法卒）は、「低迷期もあったが、応援し続けてきた。いよいよ今日、優勝が決まる。優勝は野球部だけでなく、ずっと支え続けた応援団のためにある」と興奮気味に話す。

1 回表に専修大学が 1 点を先制。その後は、両校 1 点も許さず、緊張感のある投手戦となった。育友会本部役員の道林京子さんは球場に足を運べなかった仲間へ、試合の経過を逐一メールで送り続けた。

育友会員で自身も専大 OB の植村忠史さん（S58

経済卒）は、「今季 1 部に復帰して、すぐ優勝争いするとは思わなかった。これまで応援に来た試合は勝っている。今日もきっと勝ってくれるはず」と、育友会の仲間と声を枯らして声援を送る。

そして、その瞬間はやってきた。1 点を守り抜きゲームセット。選手たちがマウンドに駆け出すと同時に、学生、教職員、卒業生、育友会員らで埋め尽くされた 3 塁側スタンドは歓喜の渦に包まれた。

10 試合でサヨナラ勝ち 3 度を含め、5 試合が 1 点差の勝利と、抜群の勝負強さを見せた春季リーグ。齋藤正直監督は、「凌いで勝てるチームは必ず強い」と、選手に言ってきた。それが、最後の最後にもやってくれたのは素晴らしい」と選手を称えた。

今季の全試合に足を運んだ OB の宇治真人さん（S42 商卒）は「本当に嬉しい。今日、こうしてみんなが一つになって応援できたのは素晴らしい。私たち OB の爺さんだけでなく、これを機に若い学生たちが盛り上がってほしい」と満面の笑みを浮かべた。